

☆アタッチメント導入の始まり

1972年非可動性アタッチメント（ハダックス社）導入以来今年で40年を迎えました。このアタッチメントの導入に当ってはドイツのヘルベルトシュパング著（翻訳、津留宏道・佐藤隆志）アタッチメントの要点によるもので、早々に大信貿易社がドイツから招いたマイスターによる実技講習が始まりました。その後はアタッチメントと言えは”C-プラス”との名を欲しいままにしました。多くは語れませんが、それは多くの先生方の支持と多くの患者さんの受け入れがあったからに他なりません。現在は名称こそ違いますが**パリオソフト3アタッチメント**を次世代アタッチメントによる補綴物として、今後もこの理念に基づき製作を推進いたします。

営業 西元健一
ファイバーコア

支台歯の欠損が歯根に及ぶ場合、メタルコアが殆どのようにあります。メタルコアがときには歯根破折やあるいは撤去には困難を来しているようです。天然歯の歯質に近い**ファイバーコアが歯根保護**に役立っております。象牙質とファイバーコアの接着剤も優れたものが推奨されております。

オールセラミックのコア材としても色調の再現性やマージンラインの変色防止にも効果的です。アタッチメントの支台歯としても歯根破折の防止にも対応できるコアシステムとしてお勧めしております。

技工士 原 謙一郎

いつもお世話になっております。
毎日暑い日が続いていますが体調崩されてないですか。
最近、弊社でも**オールセラミック**の受注が増えています。
日々仕事をやっていく中、オールセラミックを製作した後にメタルボンドを製作するとマージン付近のブラックライン感が一段と気になる様になりました。
そういった面からも一度オールセラミックを試されたいかがでしょうか。

技工士 松浦志樹

「模型では合っているのに口腔内では合わない」よくあることではないが、再製は技工士にとっても精神的に痛手でもある。印象材のちぎれ、血液や唾液による不明瞭などの明らかなものと違い、印象や模型を見ただけでは判別することは難しい。①原因には印象操作時の問題 ②印象撤去時の問題 ③軽時的な変化 ④気泡の混入などが考えられる。石膏の重みトレの置き方など、医院とラボでのコミュニケーションで失敗再製をただ繰り返すのではなくその原因について話し合うことが一番の防止対策となるのではないでしかようか・

アタッチメントデンチャー のつぶやき

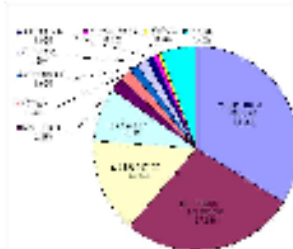
遊離端の欠損補綴にどんな選択肢を考えられますでしょうか？
今、いきなりアタッチメントデンチャー などお勧めすれば、インプラントがあるとの返事が返ってきたりします。それでも、以前からアタッチメントのデンチャーを手掛けられた先生方は、やはり遊離端補綴には再度採用されている実状があります。
こんな小さな紙面では到底語れるものではありませんが、ヒンジタイプとリジットタイプのどちらかの論争は終わったと唱えられた教授が50年前に著述されており、ひどく感銘して40余年、アタッチメントデンチャーを作り続けております。
長所は全く壊れないこと、欠点はメタルコアによる楔状形状からの歯根破折が取り上げられます。今後もまだ作り続けます



口を開いても義歯を入れているとは気づかれません



金属部分はレジンで覆われているため金属による弊害は少ないです



リチットタイプのアタッチメントが殆どを占めております

各種アタッチメント製作分布
いろんな遊離端義歯に対応
今までにFAX送信のために作成したものをお届けしております

株式会社 オー・プラン・ラボトリー

〒661-0022 兵庫県尼崎市尾浜町1丁目29-1

TEL:06-6426-5291 FAX:06-6426-5292

E-Mail:webmaster@opl.co.jp URL: http://www.opl.co.jp

ご意見やご質問は、webmaster@opl.co.jp(電子メール)までお願い致します。

□今後FAX不要の場合はお手数ですがFAX番号 _____ 記載の上返信してください。